

## がん看護実践能力強化コース、ブラッシュアップコース（インテンシブコース） 報告

平成 25 年 11 月 30 日(土)に、兵庫県立大学主催のインテンシブコース特別セミナーを新大阪丸ビル別館会議室で実施しました。講師には大住省三先生（国立病院機構四国がんセンター乳腺外科、がん診断・治療開発部長）金子景香先生（同、臨床研究センター／家族性腫瘍相談室認定遺伝カウンセラー）をお招きし、午前は「HBOC（家族性乳がん卵巣がん）の臨床」、午後は HBOC ハイリスク患者の遺伝カウンセリングの実際」のテーマのもと、全国より、がん看護実務経験のある看護師、がん看護専門看護師や修了生に参加いただきました。参加人数は午前に 40名、午後に 30名でした。



**平成 25 年度 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン  
インテンシブコースセミナー  
アンケート集計結果**

日時：2013 年 11 月 30 日（土）10:00～12:00 13:30～16:30

場所：新大阪丸ビル別館

テーマ：

『がん医療における最新情報！がん看護に必要な“家族性乳がん卵巣がん”の知識』  
午前「HBOC（家族性乳がん卵巣がん）の臨床」、午後「HBOC ハイリスク患者の遺伝カウンセリングの実際」

講師：大住省三先生（国立病院機構四国がんセンター乳腺外科、がん診断・治療開発部長）

金子景香先生（同、臨床研究センター／家族性腫瘍相談室認定遺伝カウンセラー）

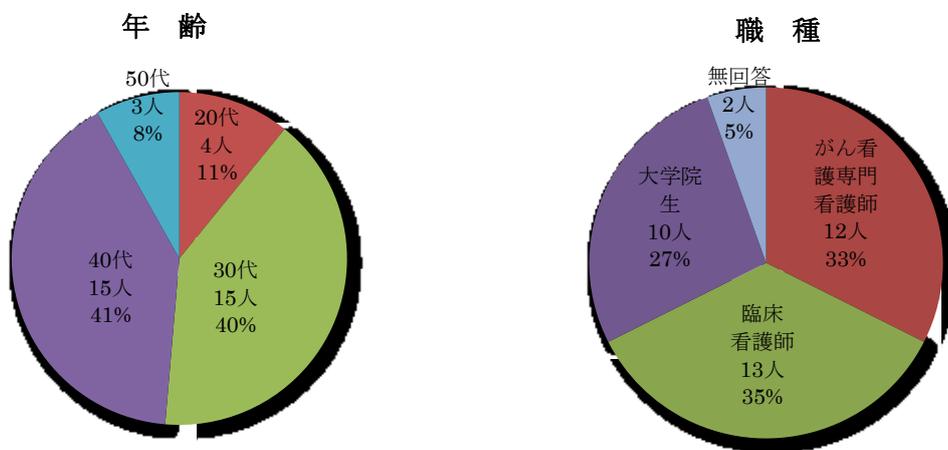
受講生：午前 40 名、午後 30 名、のべ 70 名、アンケート回収：37 名

（両受講者は 1 枚提出）

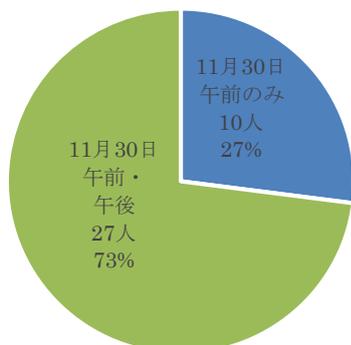
主催：兵庫県立大学看護学研究科 代表：内布敦子

**<アンケート集計結果>**

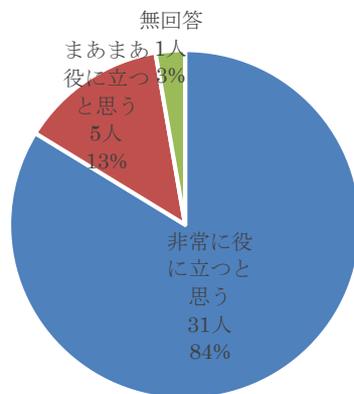
Q1：最初にあなた自身のことについて、お尋ねします。



Q2：参加時間



3-1：今回参加されたセミナーは今後役に立つと感じますか。



Q3-2：企画に参加してあなたが感じたことがあればご自由にお書き下さい。

①講義内容に関して

- ・自分で調べることが難しい内容まで教えて頂きました。遺伝カウンセリングについて、あまり知らなかったので勉強になりました。
- ・PM都合でAMのみの参加でしたがPMをとっても聞きたかったです。
- ・とても興味深かったです。先生方のご講演がわかりやすかったです。
- ・知識の整理をすることができました。
- ・エキスパートナースに広く学習の機会があるといいと思います。
- ・今後若年乳がんや両側乳がん発症の患者のサポートに生かしていけるようにしていきたいと感じた。
- ・遺伝カウンセリングの重要性と大まかな流れを知ることができ、興味深く思いました。腫瘍相談室での相談が非常に大切なので保険対象になると良いと思いました。また論理的な問題について今後も考えていきたいと思いました。
- ・早期に発見できたりすることはとてもいいことだし予防ができることも良いことだと思うが精神的フォローが一番大切になってくるため簡単に患者さんに話せることではないと思った。遺伝性がどうか知ることのメリット、デメリットがとても大きいと感じた。
- ・遺伝性腫瘍のことを深く考えることができました。今後も考えていきたいです。
- ・患者様から何かのサインが出た時にせめて、応じられる施設や情報源につなぐところまではできるようにしていきたい。
- ・とても勉強になりました。情報をだすということの勇気を教えてもらいました。
- ・今まで勤務している中でHBOCのリスクがあるかどうかは考えたことがなかったので、今回勉強したおかげでそういう目でリスクがあるかもしれない人を見れる様になるので

ないかと思えます。ただ、早期発見という利益がある一方、発症リスクを抱えて生きていくことやサバイバーズギルドを持って生きていく事についてのフォローアップが非常に重要になってくるんだという事を感じました。

- ・新しい技術によって救える命がある一方でこれまで悩む必要のなかった問題が生じており、新たな倫理観をもたなければならないと思いました。
- ・勉強になりました。有難うございました。
- ・これらまだまだ発展していく分野であると思うのですが、知ることでもまた新たな不安悩みなどの問題がでてくるため、論理的にとっても複雑だと感じました。しかし、必要とされている方もおられると思いますし、メリットも理解できました。この分野における看護師の役割についてももう少し示唆いただければと思いました。
- ・大住先生のお話の内容やスライドが非常に理解し易かった。自分が間違っって認識していたことや新たなエビデンスのある知識の習得がある。遺伝の実際がわかったが専門性が高く、自身が正確な知識を提供するには訓練が必要だと思った。
- ・遺伝性腫瘍について知識を得ていくことは重要であるが安易には取り扱えない内容であると改めて思いました。まずは、対応できる施設を知り、そこにつなぐことから始められるとよいのかと感じました。
- ・HBOCについてわかりやすく講演をしていただきとても勉強になりました。近々カウンセリング導入の予定がありますので本日勉強させてもらったことと今までに活かせたらと思います。
- ・癌にかかるまでに予備知識を持っていただくことの大事さを改めて感じました。
- ・遺伝子検査が受けられるように、現在準備をすすめているところであり、知識を得ることができよかったです。メリットは十分理解できますが、デメリットをどうしていくかが課題であると思っています。遺伝カウンセラーも雇用の予定ですが、1/週であり、医師と連携していくとは思いますが、直接的に看護師と関わるのが少ないようです。チーム医療が何より大切であると思いました。
- ・臨床とカウンセリングの実際の講義をうけ、実際に家系図も演習で聞き取りが出来たので、とても有意義であったと考えてます。
- ・乳がんや卵巣がんの患者さんの看護をするにあたって、HBOCの知識をもってチーム医療をすることはとても大切であることがわかりました。
- ・とても勉強になったが経験5年目の看護師として、この知識をどう利用していくか難しい。もっと経験を積んで自分の経験と知識を確立させてから該当患者さんの役立つ看護ができたらと思う。
- ・とてもわかりやすかった。
- ・専門職が集合してチームとして取り扱うべき課題だと思いました。
- ・確かな知識を持つ事の重要性を再確認致しましたし、学ばせて頂きました。

情報提供を併行して心理・社会的サポートができる専門のカウンセリング技術もないと片手落ちだと思います。今後その点も学びと深めて磨いていきたいと思っています。

- ・ 現在、院内で HBOC や HBOC 高リスクの患者、家族への支援を遺伝外来、乳腺外科、婦人科とともに検討中です。
- ・ 大変勉強になりました。ありがとうございます。今回の研修をもとに更に調べるべきこと、検討することが分かりました。
- ・ 当院でも医師（乳腺）が遺伝カウンセリング体制を作りたいと考えているが、カウンセラーは、現在大学院に行って試験という資格であり、人数も少ないのでなかなか成り立たない。Ns は研修会など参加して学んでいるか？カウンセラーになれない。ファルコ社はカウンセラーがいるところでしか検査を受けさせないと言うため、当院で疑わしい人がいても全て他の HP に変わる流れになりサポートしづらい（家系図を書く気持ちの整理、HP の案内などは出来ますが、がん相談の中で行うには時間がかかりすぎ他の Pt・Fa の相談が受けられなくなる。日々悩ましいです。貴重な企画を有難うございました
- ・ 知識だけでなく家族歴のきき方の実際や遺伝カウンセリングの実際を教えていただき臨床ですぐに使いそうで参考になりました。
- ・ すごく大切なことだが、カウンセラーにつないだり、することの難しさ（自病院にカウンセラーがいないため）を感じた。
- ・ 今まで見逃していた遺伝性腫瘍の方が多くいらっしゃると思う。
- ・ 家族歴を聴取する必要性を強く感じた。

**Q 4：がん看護実践において、現在どのようなことが課題としてあげられるでしょうか。**

また、それを解決するために必要な情報、知識はどのような内容でしょうか。

**Q 4-1：がん看護実践上の課題をお書き下さい。**

- ・ 外来看護
- ・ 治療支援にばかり目がいき、癌治療を終えた人に「これから」について介入できないこと。→サバイバーシップ（サバイバー支援、治療後置症の様相を知ること）
- ・ 一般病棟での緩和ケア（終末期）難しいと感じていました。
- ・ 遺伝性であるという事を調べるのには、料金が高く踏み込めない方もおられる。検査結果が出た場合のフォローアップするシステムができていないのが問題である。
- ・ 遺伝性であるという事を調べるには料金が高く踏み込めない方もおられる。検査結果が出た場合のフォローアップするシステムができていないのが問題である。
- ・ 緩和ケアの必要性の周知予後を知って残り時間をよりよくすごすことの重要性。
- ・ 日常診療の中で HBOC が疑わしいと感じた時に医師とのコミュニケーションの中で医師が積極的に情報提供をされない場合の対応。遺伝相談を立ち上げる難しさ。

- ・不安をあおらず正確な情報をタイミング良く提供する事。
- ・マスコミで取り上げられたら関心は高まるが、情報でまどわされないようにする事も大切ではないか。
- ・AYA 世代の新抗がん剤治療法の選択。
- ・がん患者さんの看取りの場の選択でしょうか…。このままいくと数が増えて病院では看取りきれないという風に聞いています。看護師が勤務している場にこだわらず患者さんが希望する色々な場所で看取れる様に意識をもっておく必要があるんじゃないかと思います。
- ・看護師の業務が増え、人手が不足する中でより高度なケアが求められ、バーンアウトしてまう看護師が多い、理想を実現するための環境を整える力が NS にはあまりない。
- ・外来看護
- ・地域連携
- ・CN、CNS の活用の方法が分からない。
- ・ターミナル期になるまで（ギリギリ）DNAR の説明が行われない。
- ・遺伝性がんなどもそうですが、医療者の中では知りえた情報を今後一般の方へどうすすめて広めていけばいいのか。
- ・チーム医療を行っていく上での看護師の役割、立ち回り（他職種との連携）
- ・看護の関わりの成果のだし方。
- ・患者の高齢化、入院日数の短縮に供う術後の管理、継続看護。
- ・患者や治療について理解を得にくい患者への対応（理解を得て、決断してもらうためのサポートをどうするか）
- ・専門的な知識をもった看護師は必ず必要ですが、日々新しい情報をひとりひとりのスタッフが学び理解できるようボトムアップできるようにすることが課題であると痛感しています。
- ・本日の質問でもありましたが、専任という名で片手間で行わざるえない仕事が多いので施設の考え方が大切である。
- ・真実を伝えることでのリスク・ベネフィット。
- ・がんサバイバーという視点に立った医療サポートについてが課題だと考えている。
- ・チーム医療の上手なつくり方、やり方
- ・日常診療の中で HBOC がうたがわしいと感じた時にい医師とのコミュニケーションの中で医師が積極的に情報提供をされない場合の対応。
- ・遺伝相談を立ち上げる難しさ。

**Q4-2：今後、セミナーで取り上げて欲しいテーマをお書き下さい。**

- ・予期悲嘆
- ・今度はリンチ SYN を
- ・在宅診療におけるチーム医療

- ・がん患者の精神力動論、NS 自身のストレスマネジメント
- ・Ns が考える政策・経済・医療体制の仕組みについて。
- ・ATL…。
- ・外来看護
- ・地域連携と看護の均等化と連携について。
- ・CN、CNS の活用方法
- ・ACP について
- ・がんになった親をもつ子供へのケア
- ・グリーンケア
- ・今度はランチ syn を。

#### Q 5 : その他ご意見など

- ・交通至便だったので有り難かったです。有難うございました。
- ・自施設に戻ってできることから取りかかりたいと思います。
- ・遺伝カウンセラーでの患者さんの Q&A の内容はどのようなことが多いのか？  
日々の患者さんにかかわる中で役立てれることがあれば知りたいです。
- ・とても貴重な講演を有難うございました。
- ・とても参考になりました。有難うございました。
- ・いつもですが、兵庫がんプロ様の資料は見やすいし記入しやすいので助かります。
- ・今後の活動の中で活用していけるようにしたいと思います。有難うございました。
- ・母が 30 代で HBOCMMK で、本人がそれを知りつつ幼い子がいる状態でなくなったらその子達へのフォローまで対策があるなと思い。本当に大事で難しい分野だと感じます。
- ・大変学びが大きかったです。今後の看護に活かされるようにしたいと思います。有難うございました。
- ・次回が金曜日なので参加できず残念です。
- ・本当はすごくすごくききたいので休日だったらと思います。
- ・有難うございました。

以上